「個を生かすチームづくり」の教育プログラム開発と実践

香川大学（杉本 洋一）

本教育プログラムは、認知スタイルの多様性の高いチームを機能させるために、ユングのタイプ論を理論的基盤として、自己理解・他者理解・寛容性向上を促進するように開発したものである。本事例では、本教育プログラムの開発経緯と特徴の概要を示すとともに、学内地域連携部署が主催する公開講座をプラットフォームにして社会実装に取り組み始めたことを紹介した。受講した者は、深層的多様性を建設的に生かし合える人材になる可能性がある。イノベーションやウェルビーイングを推進する基礎教育にもなるため、公開講座を通じて賛同者と出会い、賛同者（の組織）を支援し、賛同者を全国につくりながら社会実装を加速していくことを目指している。

参加人材の育成や評価上の工夫

①タイプ論を倫理的に利用した認知スタイルの仮説構築方法理解、②自己理解・他者理解・寛容性向上の循環的促進、③自分らしさの発揮と抑制を支えるメタ認知育成、④協働の質を高めるマインドとスキルの向上、等により深層的多様性を生かし合える人材を育成。

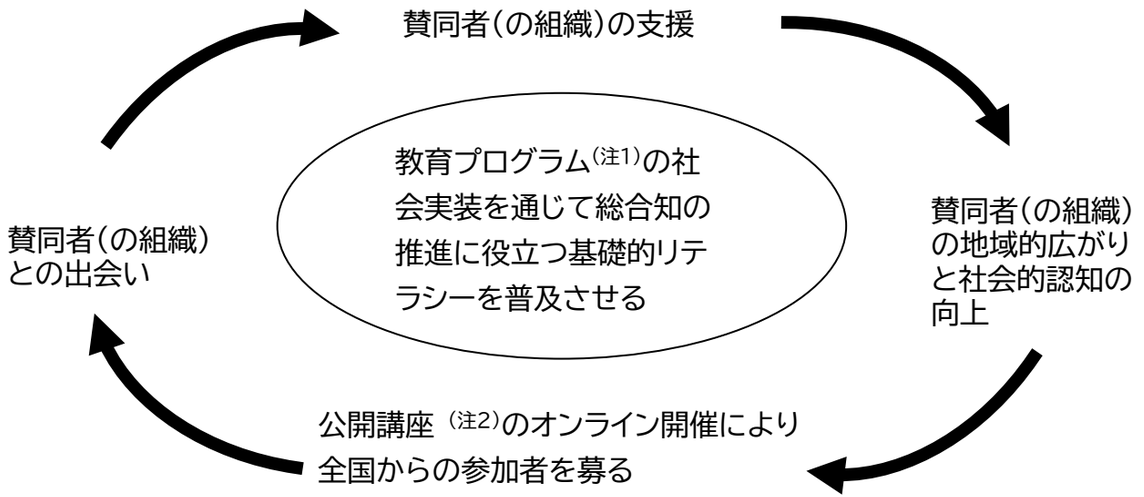
参画しているステークホルダー/「矩」を超えた場づくりの工夫

本教育プログラムは、スタンフォード大学のTeamologyを先行研究とし、日本人の心性に合うよう試行錯誤を経て開発された。学内の工学系・看護学系教員との学際的な知の連携があった。今後は精神神経科学者がアドバイザーとして協力する（杉本は令和5年度末に定年退職したが、公開講座を起点にした社会実装に取り組み中）。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

社会全体の空気が、①互いの自分らしさを認容し寛容である、②心理的安全性を感じながら知見の交換を楽しくできる、③自他の異同を建設的に生かし合うことに積極的である、④知の新結合を生む対話が増え自己効力感を持てる、方向にシフトしていくことを目指す。

教育プログラムの社会実装を加速してくための基本戦略



（注1）参考文献：杉本洋一（2024）.『個を生かすチームづくり　深層的多様性を生かし協働の質を高めるマインドセットとスキルセット』. 幻冬舎.

（注2）香川大学地域人材共創センターでは、毎年前期後期の半期ごとに、公開講座を開講している。

総合知活用事例に対する質問・回答フォーマット

質問①　多様な知について　「属する組織の「矩」を超え，専門領域の枠にとらわれず，多様な知を持ち寄る」について，応募事例では，どのような専門分野の方が参加しているか。

本教育プログラムの開発の端緒は，先行研究（スタンフォード大学機械工学科ワイルド名誉教授の考案したTeamology）に対するタイプ論利用上の倫理的懸念であった。工学部教員（設計工学）および医学部教員（看護心理学）とチームを組み，２回訪米して意見交換をした後，日本人の心性に合った定式化に取り組んだ。本教育プログラムは，関係性の質を自律的に高めることで，Well-beingとイノベーション創出の同時実現を図ろうとするものである。今後，社会実装を展開するうえでは，本申請者１名が実行者となるが，放送大学教養学部教員（精神神経科学）がアドバイザーの立場で協力する。

質問②　ビジョン，未来の社会像について　ビジョン（直接のアウトプットとして想定されるもの，短期的な課題解決などを想定）はどう設定しているか。目指すべき未来の社会像（長期的な社会像として目指すもの）をどう設定しているか。

本教育プログラムの教育効果は「自他の認知スタイルの異同を基本的に理解できる」「自分でタイプの仮説を構築し，違和感があれば，仮説を修正していくことができる（＝ 自己決定権が侵害されない）」「自他のタイプの自分らしさを考えながら状況適応的なふるまいをメタ認知できるようになる」「協働の質を高めるうえで役に立つマインドセットとスキルセットを身につけることができる」である。この教育効果を，Well-beingを実感できる働き方とイノベーションの創出につなげたい。

まず，短期的ビジョンとしては，知識教育に特化したオンライン公開講座を開講し，全国大での既学習者の拡大を目指す。そして長期的ビジョンとしては，以下の特徴を持つ社会像の実現を目指す。特徴①：「他者と違う『自分らしさ』」と「自分と違う他者の『自分らしさ』」の両方を認容する“寛容性”が社会に満ちている。特徴②：知の交換を自由に楽しむための“心理的安全性”が社会関係資本の中に醸成されている。特徴③：自他の『自分らしさ』を生かしあうことが社会の共通理解となっており，誰にも居場所と出番がある。特徴④：対話から知の新結合が起こり，人々が自己効力感と自己肯定感を感じている。

質問③　課題の整理について　②のビジョンを達成するにあたって，応募事例においてはどのように各課題を整理しているか。また，障害等になる課題があるか。

本教育プログラムを社会実装していくうえで，まず，短期的な課題は，オンライン公開講座を通じて，本申請者の「信念と目指す社会像」に共感してくれる人とつながることである。つまり，開発の背景にあった本申請者の問題意識と信念に共感してくれる人と出会うことである。そのような人は，本教育プログラムを社会に”伝道”していくことに共に汗を流してくれるであろう。次に，長期的課題は，社会的普及の進捗に合わせて教育サービスの提供体制を構築することである。

質問④　知の連携による課題解決について　応募事例の中で，多様な知の連携（場づくり，相互の協力体制など）について，どのような方法や工夫をしているか。

令和5年度に香川大学地域人材共創センター主催の公開講座で，上記オンライン公開講座を試行的に開講・実施した。四国だけでなく他地域（宮城、東京、大阪、岡山、島根）からも申込があり14名の受講者があった。少人数ながら本教育プログラムを伝道してくれる「協力者」を得た手応えがあった。この好循環を繰り返していくため次年度の開講も上記センターに申請する。現在は，本申請者１名が社会実装の教育に取り組む体制であるため，当面は全国に異質性を生かし合うマインドとスキル（とくに知識）を持った人材の拡散を目指す。また，協力者が，自組織内に伝道していくことを可能な範囲で支援していく。

総合知活用事例(人材育成):「個を生かすチームづくり」の教育プログラム開発と実践

深層的多様性の認知スタイルに着目し，ユングのタイプ論を理論的基盤にすることで自他の「自分らしさ」を生かし合うマインドとスキルを定式化。社会実装に取り組み中

香川大学創造工学部
准教授　杉本洋一

マインドセット

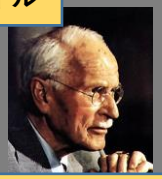
教育プログラム（タイプ活用教育型の協調設計）を開発し
2018年度から創造工学部１年生必修科目。社会実装取組中

イノベーション

自己理解・他者理解の着眼点は認知スタイル

協調設計の要点は「自分らしさ」の発揮と抑制

ユングのタイプ論の倫理的利用の遵守



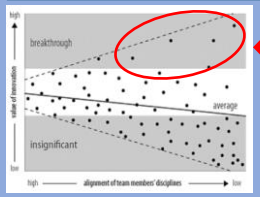
ユングのタイプ論

デザイン思考

量子力学と東洋思想

高次の思考

経済発展の３Ｔ（Technology, Talent, Tolerance）



深層的多様性が大きくなると，突出成果は生まれるが，まれにしか起こらない。異質性を協働の質に生かす教育が必要。

新結合の促進

**ユングのタイプ論を理論的基盤として，
自己理解・他者理解・寛容性向上を促進し，
認知スタイルの多様性の高いチームを機能させる。**

寛容性と心理的安全性

協働のプラス面を理解する

協働のマイナス面を理解する

Teamの活動を理解する

Teamの成果を理解する

Teamという協働形態を理解する

選別ではなく互恵

相補的な協働

自他の「自分らしさ」を生かし合う

寛容性と有機的連帯を社会に取り戻す

スキルセット

タイプ論の利用をローエンド志向にしたことで教育展開しやすい。
本教育プログラムと同様の定式化をした方法論は，国内外にない。

Well-being

成果

- 創造工学部開設（2018）以来，累計約2100名の履修者
- オンライン公開講座や出前講座で社会実装に取り組み中

課題

- 公開講座を通じて社会に“伝道”する協力者を得ること
- 受講者拡大と社会的普及の進捗に合わせた運営体制構築